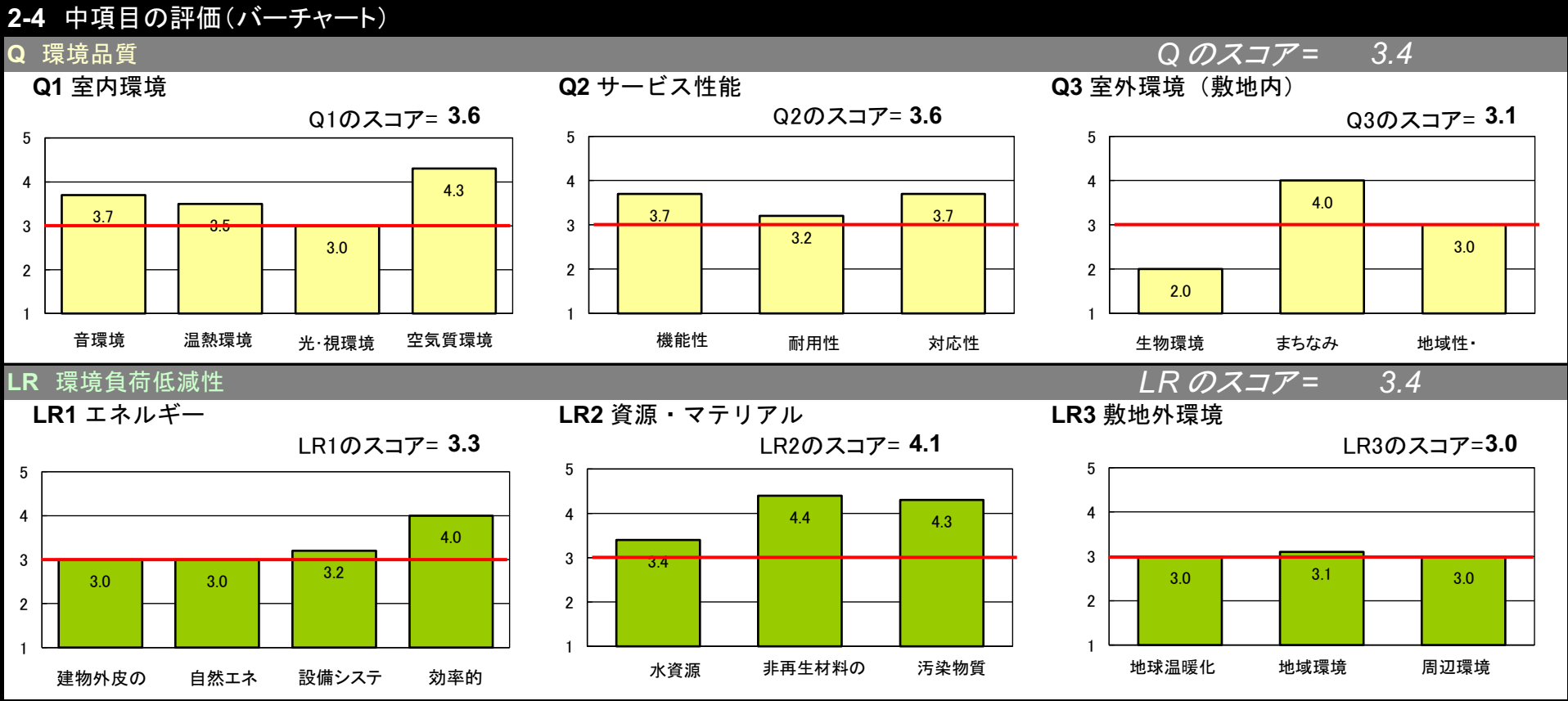
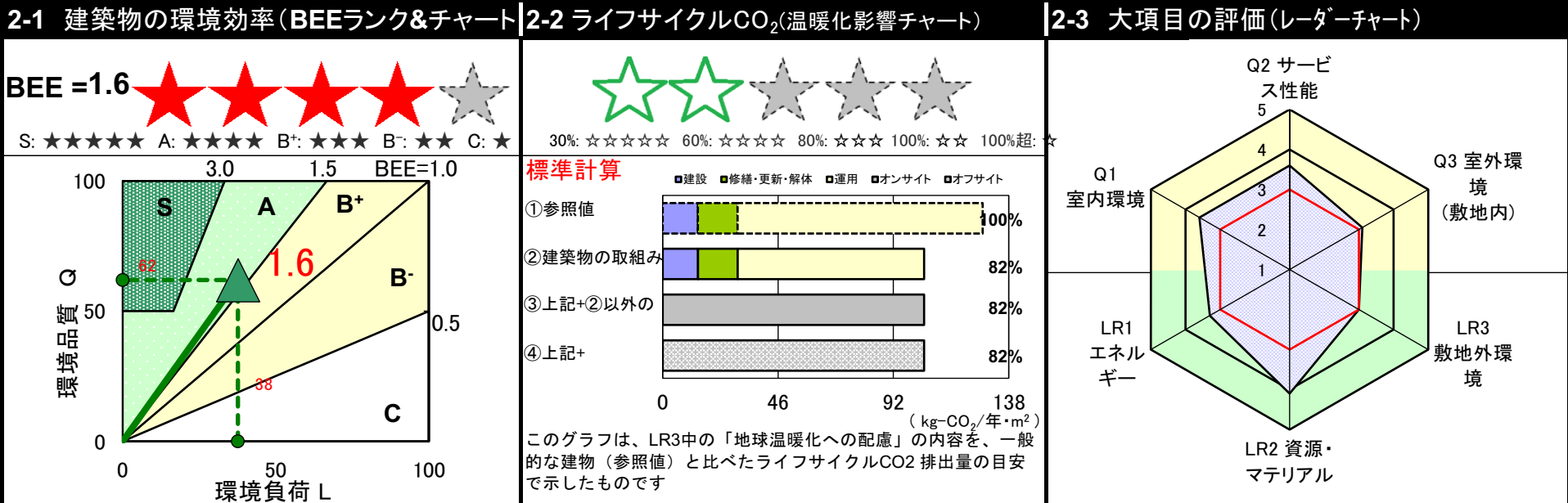




■使用評価マニュアル： CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト： CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名駅4丁目OTプロジェクト	階数	地上16階 地下2階
建設地	名古屋市中村区名駅四丁目801番、802番803番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	358 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,304 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年4月28日
敷地面積	1,811 m ²	作成者	
建築面積	1,263 m ²	確認日	2021年5月10日
延床面積	19,932 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
南北方向に細長く、又くの字型である異形な敷地条件の上で、オフィス利用機能面においての高効率かつ建物運用における省エネルギー化を考慮した建物計画としている。また、ミヤコ地下街から建物への一体接続を計画する上では、洪水等の浸水時における一時避難場所を屋内に確保することで建物利用者や地域住民に地下街の安全性向上を図っている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境においては、遮音、吸音性能共に高水準を確保し、労働環境としての居心地の良さについて配慮した設計としている。	内装仕上げ材には、耐用年数の長い部材を使用している。対応性・更新性としては、空間のゆとりがあり、いずれの設備の更新性もほとんど仕上げ材を痛めることなく済むよう配慮している。	異形な敷地条件の上で、緑地帯を多く設置し、周辺住民に開放的な室外環境を作り地域環境にも配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮への熱負荷抑制や設備システムの効率化において高い水準を確保している。	地階の既存躯体の再利用、また、非再生資源の使用量削減として部材の再利用可能性向上に取り組んでおり、環境に優しい建築を目指している。	交通負荷抑制として、地階に機械式駐車場、地上にオフィス管理用としての荷捌きスペース(駐車場)を配置し、それぞれに入場動線を確保している。廃棄物の処理負荷抑制も十分に行うことで、敷地外への影響を極力少なくなるよう努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名駅4丁目OTプロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.090189882	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009018988	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045094941	
3. 循環型社会				4.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 4.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。